

平成29年度

# 研究紀要

学校教育目標

豊かな心を持ち、一人ひとりの児童が主役となれる学校

## 研究主題

「主体的に読む力を育てる国語科教育  
～言語活動の充実を通して

佐倉市立志津小学校

# 仮説の検証

**仮説1 適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つきたい力」を身に付けさせることができるだろう。**

手立て～全校での取り組み～

①適切な言語活動の精選

②読解プリントへの取り組み

③文学作品の音読

## 第2学年「わにのおじいさんのたからもの」(物語文)

○教材文の学習の始めに、人物、三部構成など、物語の用語の定義や登場人物がしたことを一斉で確実におさえた。

→物語の共通理解ができ、「読み」を深め合うことができた。

○5年生に伝える「続き冒険話」を書くために、教材文の①季節の表現②言葉の繰り返し③対比の表現④美しさを伝える表現を「すてきひょうげんブック」に書き留めていった。

→教材文を読む際に意識でき、続き話を書く際にも取り入れることができた。5年生への紹介が、大きな意欲につながった。

中心となる言語活動：「続き冒険話」を書き、5年生に発表する。

## 第3学年「めだか」(説明文)

○毎時間、段落ごとに「読み取ったこと」「それに対して思ったことや考えたこと」をワークシートにまとめた。

→整理しながら読む力が付いてきた。

○「めだかのひみつブック」を紹介する活動として、①ペアでの読み合い、加除訂正②グループ内での発表③家族への発表と段階を踏んで設定した。

→同じグループで活動を続けたことで、意欲的に発表に取り組み、自分達で進めることができるようになった。

中心となる言語活動：「めだかのひみつブック」を作り、家族に

## 第4学年「花を見つける手がかり」(説明文)

○段落相互の関係を考えながら読むことができるよう、①実験のねらい②実験の準備・方法③実験の結果④結論⑤次に実験すべきことが書かれている文をばらばらにして並び替えた。

→並び替えた理由を、「～と書いてあるので、この段落とこの段落はつながっていると思う。」のように、子供が自ら接続語や指示語に着目することができた。

○事実と意見に色分けしてサイドラインを引いた。

→事実と意見の違いにも目を向けることができた。

中心となる言語活動：「説明文ばらばら事件」で、段落相互の関係

**仮説2 目的意識をもって取り組みば、読みのめあてが明確になり、進んで読むことができるだろう。**

**手立て～全校での取り組み～** ①単元のゴールを意識させる ②朝読書の充実  
③読書記録を付けて、足跡を残す ④並行読書 ⑤学校図書館司書の活用  
⑥図書ボランティアや地域のお話会との連携 ⑦市内の図書館の活用

### **第1学年「りすのわすれもの」(物語文)**

○読みの視点をはっきりし、友達に本を紹介する文を書き、発表の場として、「どうぶつおうけっていせん」を行った。

→子供達は、友達から選ばれた気持ちから物語をよく読み、文を書くことができた。

○動物の種類別に本を探して読む「どうぶつたんていてちょう」を取り入れて、たくさんの本を読むようにした。

→登場人物(動物)にスポットを当てることにより、自ら本に手を伸ばす子供達が増え、本を読むことの意欲につながった。日ごろ手にしない本にもふれることができた。

中心となる言語活動:「どうぶつたんていてちょう」を作成、「どうぶつおうけっていせん!」を行う。

### **第5学年「大造じいさんとがん」(物語文)**

○読みの視点を①人物関係図②美しい一文(情景描写)③クライマックス④主題の4つにしぼる。

→「大造じいさんとがん」や「自分の選んだ本」から作品の魅力について読み取り、考えたことをまとめることができた。

○7作品から自分が並行読書する作品を選ばせ、同じ本を選んだ4人グループで、読みを交流する。ライブラリーナビ完成後は違う本を選んだ友達と椋鳩十の作品を推薦し合う。

→友達との対話を通して、読みを広げ、深めることができた。

中心となる言語活動:椋鳩十の作品を推薦するライブラリーナビ作りをする。

### **第6学年「伊能忠敬」(説明文)**

○読みの視点を「①時を表す言葉と行動②人物像③自分の生き方」にしぼる。

→先人の軌跡をたどりながら行動や人物像を押さえ、それに対する考えと自分の生き方についてまとめることができた。

○「伊能忠敬」と同じ読みの視点で一人一冊以上の伝記を並行読書し、ヒントカードを作成して友達と交流する。

→今後の自分の生き方を具体的に考えるとともに、複数の先人の生き方を知ることで、自らの生き方をより深く考えることができた。

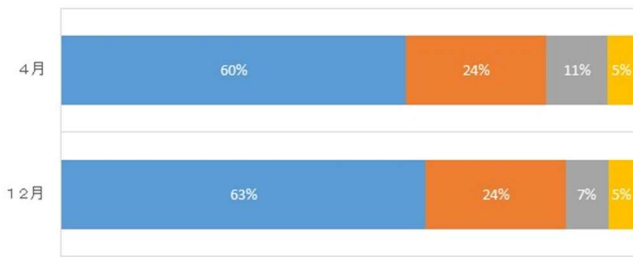
中心となる言語活動:「先人に学ぶ～12歳、私の生き方ヒント集～」の作成をする。

# 成果と課題

## アンケート結果と考察

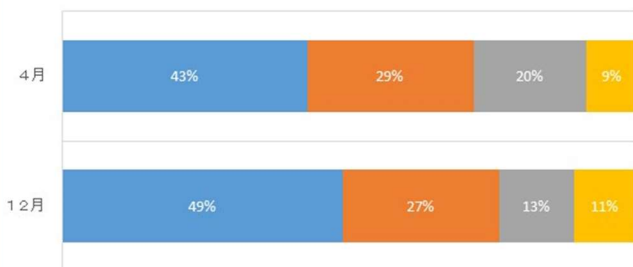
### 物語文を読みたいと思いますか？

■思う ■どちらかといえば思う ■どちらかといえば思わない ■思わない



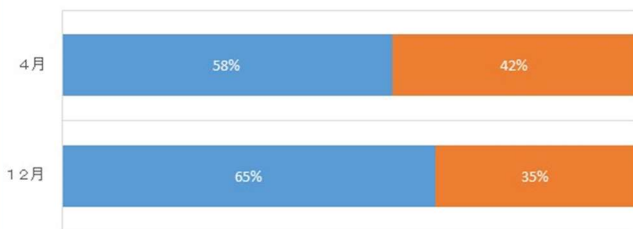
### 説明文を読みたいと思いますか？

■思う ■どちらかといえば思う ■どちらかといえば思わない ■思わない



### 国語の授業で自分の書いたもの、作ったものを紹介したいですか？

■はい ■いいえ



#### 《考察》

- ・物語文を好む児童が、全体的に増えたことが分かる。単元計画の工夫により、学習についての見通しをもてたことが大きいと考える。
- ・説明文を読みたい・どちらかと言えば読みたいと答えた児童が増えた。構成や接続語に注目して、読むことができるようになってきた成果だと考える。
- ・良い作品ができたにもかかわらず、約 1/3 の児童は、紹介することに抵抗があると答えた。これが今後の課題である。

## 成 果

### 《仮説 1》

- ・単元のゴールを目指して、頑張ることができる児童が増えた。
- ・単元計画を立てる際に、始めに内容の大体を捉える活動を行うことで、最後まで読みの視点を意識することができた。
- ・つけたい力にしばった言語活動を設定することで、読みの視点がはっきりし、読みを深めることができた。

### 《仮説 2》

- ・朝読書に意欲が出たり、広く読書をしたりすることができた。
- ・単元計画を通して、交流するメンバーを工夫することで、常に相手意識をもって読み進めることができた。
- ・児童の希望を入れて、並行読書で扱う本を決めたため、何度も読む姿が見られた。

## 課 題

### 《仮説 1》

- ・「つけたい力」に合った言語活動や単元計画をできるだけシンプルに立てていくべきである。
- ・単元計画のなかで、ABワンセット方式と入れ子式をその時間の活動に合わせて使い分けた方が効果的だった。

### 《仮説 2》

- ・読解力により、並行読書の進度に大きな差が出てしまっていた。児童一人一人の読解力に合わせた本を提示してあげるべきだった。
- ・意欲的に並行読書に取り組むためには、一人一冊の本を確保する必要がある。
- ・本の選択について、教師が把握しきれなかったり、全て読めていなかったりするとアドバイスが難しい。